長崎派遣で学んだこと、感じたこと

豊田中学校　３年　大沢悠純

僕たちは８月８日～８月１０日に長崎へ行ってきました。

１日目には「青年ピースフォーラム」に参加しました。実際に「原爆」が落ちた場所がある平和公園に行き、説明を聞きました。原子爆弾は、上空 9600mから落とされ、地上 500mのところで爆発したそうです。そして地面の温度は 3000 度～4000 度まで上がりました。1500 度が鉄を溶かしてしまうくらいの温度なので、人間も溶けてしまうくらいだったのだろうと思いました。

次に「下の川」へ行きました。この川には放射線や熱線などの被害を受け、皮膚が火傷だらけになってしまった人や、水を求めてたくさんの人が来た川です。しかし、川には油が浮き、飲めそうにもない状態だったそうです。ですが、被害を受けた人たちは川の水を飲みました。このことから、油が浮いていても川の水を飲んでしまうくらい喉が渇いていて周りに水が無かったということが分かりました。そんな状況を人々に与えた「原爆」は恐ろしいなと感じました。他にもいろいろな場所を回って説明を聞き、当時の人々の状態や被害を学ぶことができました。

２日目には「平和式典」に参列しました。そこで印象に残ったのは、原爆者代表の宮田さんによる「平和への誓い」です。当時、爆心地から２,４㎞の自宅にいた５歳の宮田さんは爆風によって、八畳間から玄関まで吹き飛ばされたそうです。そしてその夜、宮田さんの家に逃げてきた看護師さんは髪が逆立ち、左目は飛び出し、「水をください」といったまま絶命しました。また、自分の家族は白血病や癌で死んでしまい、もし自分だったら我慢できないなと思いました。そういう人たちがいると考えると本当につらいですし、玄関まで吹き飛ばされたということから、爆風による被害もすごかったのだと思いました。原爆被害者はどんどん高齢化しているらしいので、原爆の辛さや恐ろしさを次の世代に伝えていき、二度とこういうことが起きないようにすることが大切だと思いました。

３日目には「原爆資料館」へ行きました。原爆資料館には原爆の被害を受けた写真や映像がたくさんありました。原爆は放射線や熱線による被害も多くありました。光を隠すと影ができるように、熱線を受けた人の影がくっきりできたそうです。そして、原爆が落ちた時に助かっても、放射線を受けた人はその後、白血病や火傷、癌などの病気になり、生涯苦しんだそうです。他にも印象に残ったのは、背中を大火傷している映像です。子供の背中全体に火傷を覆っていてとても苦しんでいました。こういう映像や写真があると、改めて「原爆」は恐ろしいと感じることができました。

この３日間を通して、「原爆」の恐ろしさや人々に与えた被害、このことを伝え続ける価値など、いろいろなことを学ぶことができました。一人一人が原爆のことを深く考え、平和を実現することが大切だと思いました。

原爆の凄惨さ

豊田中学校　３年　丸山沙雪

１　青少年ピースフォーラムに参加して

私たちは８月８日～８月 10 日に長崎に行ってきました。

１日目は青少年ピースフォーラムに参加しました。これは青少年ピースボランティアの方たちが企画・運営をしているものです。ボランティアのみなさんは、私と同年代なのに自ら発信する力、行動力に強く圧倒されました。

平和学習では平和公園コースを巡りました。原爆落下中心地碑では被爆当時、地面の温度が 3000℃～4000℃にまで達したそうです。そんな高い温度は想像がつきにくかったですが、鉄が溶ける温度は 1500℃なのでその２倍以上と教えてもらいました。被爆中心地から 1.5km 離れたところでも 600℃だったそうなので、改めて原爆の威力を思い知りました。コースの中でも一番印象に残っているのは長崎刑務所　浦上刑務支所跡です。ここは爆心地からもっとも近い公共の場だったそうです。中国や朝鮮、アメリカやオランダから連れてこられ強制労働させられた外国人たちがたくさんいたと聞きました。面会に来ていた家族・友人も巻き込まれ、幸い助かった人たちも身よりはなく言葉も通じず、十分な治療ができないまま亡くなってしまったのです。母国で家族と幸せに暮らせていれば、被爆することなく生涯を終えることができたのではないか、日本の責任の大きさを感じました。

２　平和祈念式典に参列して

２日目は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列しました。開式の前には被爆者合唱が行われました。被爆者の平均年齢は 89 歳を超えているにもかかわらず、太陽が照りつく中、屋根もないところで力強く、平和を願う歌声には感銘を受けました。

合唱は式典の中で計３回行われました。児童合唱の「あの子」という曲の中では“ああああの子が生きていたのならば”という歌詞がありました。戦争のない世の中ならどれだけの人たちが好きなことを好きなようにできたのか、とても考えさせられました。

長崎では小学校のうちから原爆について学び始めるそうです。私は 15 年間、原爆について触れる機会はなかったと思います。私の勉強不足かもしれませんが、この派遣の機会がなかったら「原爆が落ちた」ということしか知らないままだったかもしれません。原爆を風化させないために、また繰り返されないようにするためにもっと１人１人の戦争に対する意識を高めていくべきだと思いました。また、自分からも学んだことをどんどん発信していきたいです。

長崎平和学習を行って

豊田中学校　３年　西野美陽

私たちは８月８日～１０日に長崎へ行き、平和学習を行いました。

１日目は平和公園でフィールドワークをし、当時、被爆によって出た被害などについて説明をしていただきました。平和公園には平和に関する像などがたくさんありました。例えば、平和の泉、平和祈念像などです。平和の泉は、被爆し「水が飲みたい」「水が欲しい」と思いながら亡くなっていった方々へのご冥福をお祈りするという意味を込め、水を使ったモニュメントになっているそうです。そして、平和の泉は水の形が変わり、平和の象徴である鳩の翼を連想させるつくりになっているそうです。平和祈念像は被爆 10 周年に建てられた像です。平和祈念像のポーズにはそれぞれ意味があり、右手は原爆の恐ろしさを、左手は平和を、軽く閉じた目は被爆者の方へのご冥福を表しているそうです。これらの他にも外国から日本へ送られたモニュメントもあるそうです。

その他に、下の川の近くには被爆当時の地層を見ることができる場所がありました。地層の中にはお茶わんやレンガなど普段の生活で使うものがたくさんありました。この地層を見て、ここで生活をしていた人がいたという実感がさらにわいてきました。

２日目は平和祈念式典に参加しました。平和祈念式典の初めには被爆者の方々による合唱がありました。戦争をもう繰り返さないという思いが込められている「もう二度と」という歌の合唱でした。歌を通して、戦争の悲惨さが伝わってきました。今回、実際に会場に行き平和についてのお話をお聞きして、改めて被爆した方々に出た影響について考え直すことが出来ました。たった一発の原爆によって、家族や友人を、思い出の詰まったものや場所を、何年も何年も時間をかけて作り上げたものを一瞬にしてすべて奪われ、今も放射線の影響に悩まされている人がいるということを絶対に忘れてはならないと思いました。自分達には関係のないことだと思ってしまわずに、核の恐ろしさについて一人一人が考えていくことが大切だと感じました。

３日目には長崎原爆資料館へ見学に行きました。原爆資料館には被爆した当時の物が展示されていたり、原爆による被害の大きさなどについて説明されていたりしました。熱線によって溶けたガラスや溶けた瓦などを見たり、爆風によって変形したものを見たりして、原爆の威力をより知ることができたと思います。その中でも特に印象に残ったのは 11 時 02 分で止まった柱時計です。爆風の影響で壊れてしまい、爆発した 11 時 02 分で止まってしまったそうです。今更ですが、本当に 11 時 02 分に爆発し町に膨大な被害をもたらしたのだという実感がわいたし、その瞬間だけを切り取ったように感じました。

この平和学習を通して、戦争の恐ろしさをより知ることができたと思います。自分たちが今暮らしている日本でどのようなことが起きたのか全員が知り、それを伝えていくという姿勢を取ることが大切であると思いました。一部の人だけでなく全員が二度とあのようなことを起こしてはならないという考えを持っていく事が必要だと思います。